

令和7年度
全国学力・学習状況調査

調査結果報告書
・
指導の改善策

旭川市教育委員会

はじめに

旭川市教育委員会では、児童生徒の確かな学力の育成に向けて、令和 7 年度も「旭川市確かな学力育成プラン」を継続的に推進しています。本プランでは、「学びを深める授業づくり」「落ち着いた学級づくり」「望ましい習慣づくり」の 3 つの指導の重点を柱とし、各学校において共通した取組の充実を図っています。

令和 7 年 7 月には、文部科学省より令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果提供を受け、調査の目的および結果の取扱いに関する配慮事項を踏まえ、本市の状況を分析・整理し、報告書として取りまとめました。

本報告書では、「国語」「算数・数学」及び「理科」の教科ごとに、領域別・設問別の正答・誤答の傾向を分析し、成果と課題を明確化しています。中学校理科については、令和 7 年度より CBT 調査となったことから、公開問題に基づく分析を行っています。

また、本市では小中連携・一貫教育の取組を推進していることから、9 年間を見通した系統的な教育活動や小中の円滑な接続を目指し、「9 年間の視点」として示しており、児童生徒の学力形成を長期的に見通した指導の充実を図っています。

児童生徒質問調査については、国立教育政策研究所の分類をもとに、本市の 3 つの指導の重点に沿って項目を整理し、回答傾向や教科の正答率と学習・生活習慣との相関関係を分析しました。とりわけ、自己調整学習に関する項目では、家庭学習の習慣化や授業時間以外の読書時間に課題が見られます。その要因の一つとして、メディアとの過剰な接触時間が予想されることから、メディアとの健全な付き合い方を身に付ける「メディアコントロール」の視点が重要であると考えられます。

これらの分析結果を踏まえ、課題や改善が求められる項目については、各学校の指導のさらなる充実に向けて改善策を策定しました。また、「授業ポイント集」については、本調査の結果分析を受けて各教科編の内容を更新し、授業改善に資する資料として整備しています。

さらに、課題となった設問の定着を図るため、授業等で活用可能な「学習プリント集」を作成し、児童生徒の理解の深化を支援しています。

各学校におかれましては、「旭川市確かな学力育成プラン」を基盤とし、本報告書及び「授業ポイント集」「学習プリント集」を積極的に活用しながら、児童生徒の学力向上に向けた検証・改善サイクルに基づく継続的な取組の一層の充実を期待しています。

令和 7 年 10 月

旭川市教育委員会教育長

野 崎 幸 宏

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

小学校：国語、算数及び理科

中学校：国語、数学及び理科

※国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式（「PBT」（= Paper Based Testing））で実施した。

※中学校理科は、生徒が活用するICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システム（以下「MEXCBT」という。）によるオンライン方式（以下「CBT」（= Computer Based Testing）という。）で実施した。

※調査問題では、次の(ア)と(イ)を一体的に出題されている。

(ア)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

イ 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

② 学校質問調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

※小学校、中学校ともにC B T形式で実施した。

(4) 調査日

令和7年4月17日（木）

※中学校理科及び児童生徒への質問調査については、令和7年4月18日（金）から4月28日（月）までの間にオンラインで実施した。

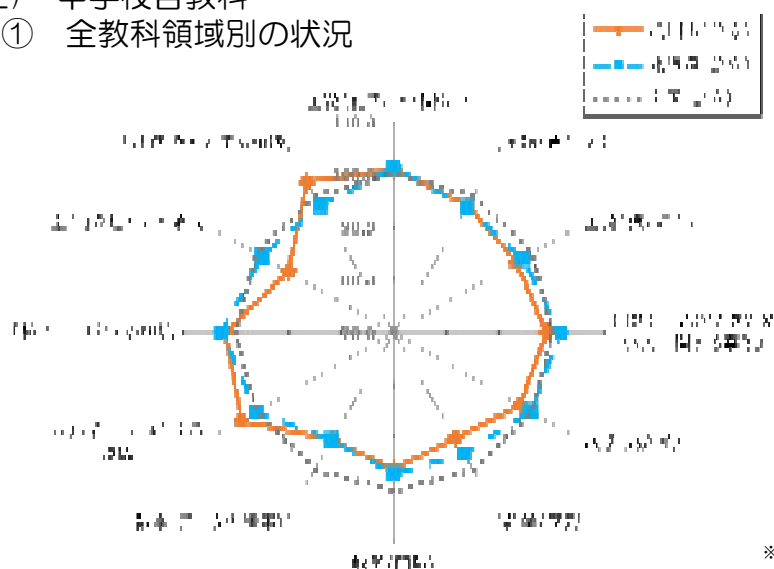
(5) 調査に参加した学校数、児童・生徒数

校 種	学校数	児童・生徒数
小学校	49 校	2,121 人
中学校	25 校	2,018 人

※児童・生徒数は、教科に関する調査のうち、回収した解答が最も多かったもの

(2) 中学校各教科

① 全教科領域別の状況



全12領域等のうち、理科の『エネルギー』を柱とする領域、『地球』を柱とする領域の2領域において全道及び全国を上回っており、国語の「話すこと・聞くこと」、理科の『粒子』を柱とする領域において全国を上回っている。国語の「書くこと」の領域において全道を上回っている。

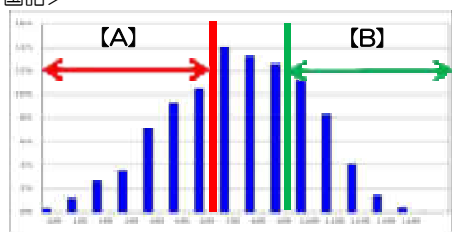
数学の「データの活用」において、全国を下回っており、国語の「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の2領域、数学の「数と式」「図形」「関数」の3領域、理科の『生命』を柱とする領域において全道及び全国を下回っている。

※(本市の平均正答率)÷(全国平均正答率)×100で算出

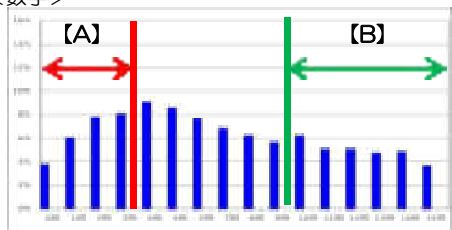
② 各教科の正答数の状況

ア 正答数の分布

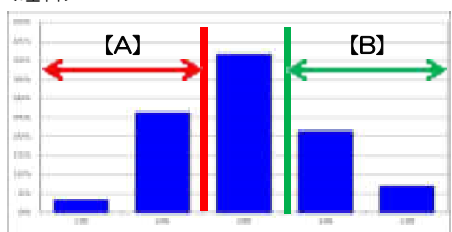
<国語>



<数学>

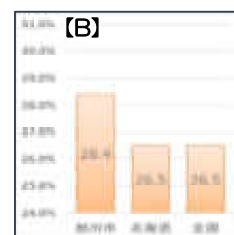
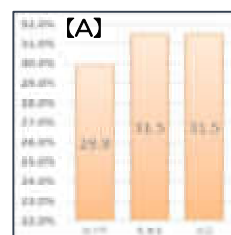
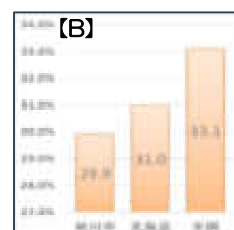
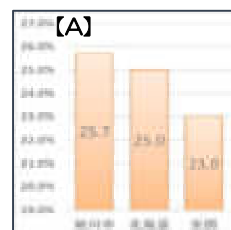
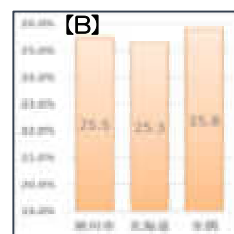
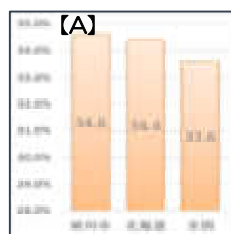


<理科>



イ 正答数の少ない層の割合

ウ 正答数の多い層の割合



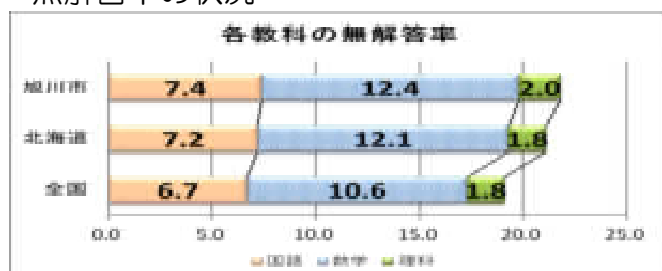
<国語> 正答数の少ない層【A】に含まれる生徒の割合は、北海道より0.2、全国より1.0多い。
正答数の多い層【B】に含まれる生徒の割合は、北海道より0.2多く、全国より0.3少ない。

<数学> 正答数の少ない層【A】に含まれる生徒の割合は、北海道より0.7、全国より2.7多い。
正答数の多い層【B】に含まれる生徒の割合は、北海道より1.1、全国より3.2少ない。

※「正答数の少ない層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の少ない層（下位25%）」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。

※「正答数の多い層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の多い層（上位25%）」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。

③ 無解答率の状況



<国語> 無解答率が、全国より0.7、北海道より0.2高い。

<数学> 無解答率が、全国より1.8、北海道より0.3高い。

<理科> 無解答率が、全国より0.2、北海道より0.2高い。

(3) 小学校国語 (全14問)

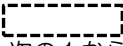
◇相当数の児童ができている設問

※〔 〕は、本市の平均正答率

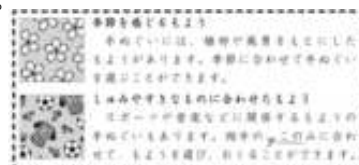
- ②ニ 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する【書くこと】
 ②四ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（このみ）【言葉の特徴や使い方に関する事項】〔82.8〕
 ③二(1) 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える【読むこと】〔81.1〕

②ニ 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する【書くこと】

正答率
80.8%

山田さんは、の中で、手ぬぐいのもようについて言葉と図で説明しています。その理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 言葉に関係のない図を示すことで、別のもようについての興味を高めるため。
- 2 二つの図を並べて示すことで、もようの移り変わりを明確にするため。
- 3 言葉と図を合わせて示すことで、具体的に内容を理解できるようにするため。
- 4 言葉と図を比べて示すことで、疑問点を明確にするため。



<正答の条件> 3と解答している。

◆課題の見られた設問

※〔 〕は、本市の平均正答率

- ②四イ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う【言葉の特徴や使い方に関する事項】〔66.2〕
 ③二(2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する【読むこと】〔47.2〕
 ③三(1) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける【読むこと】
 ③三(2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける【読むこと】〔56.3〕〔無解答率：12.7〕

③三(1) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける【読むこと】

正答率
38.1%

【話し合いの様子】の に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 【資料1】の——部①
- 2 【資料1】の——部②
- 3 【資料1】の——部③
- 4 【資料1】の——部④



9年間の視点

<小学校で身に付けさせたい力>

- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力（小5、6）

<中学校へのつながり>

- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること（中1）

<無解答率>

1.4%

<正答の条件>

- ・3と解答している
田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることができています。

<多く見られた誤答>

- ・2と解答している（37.9%）
「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「本来の意味」「本来とは違う使い方」であると考え、複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理しきれなかったと考えられる。

本課題の改善策については、P11へ

(4) 中学校国語 (全14問)

◇相当数の生徒ができている設問

※〔 〕は、本市の平均正答率

- ①二 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする【書くこと】〔80.9〕
 ③二 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える【読むこと】

③二 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える【読むこと】

正答率
91.0%

「二人の兄弟」は、この物語の中でどのような性格の人物として描かれていますか。「一 榎木の実」と「二 釣の話」を通して分かる性格を、それぞれ書きなさい。

<正答の条件>

- ① 兄の欄に「気が長い」のように解答している。
 ② 弟の欄に「気が短い」のように解答している。

<正答例>

兄 (例) 気が長い
 弟 (例) 気が短い

◆課題の見られた設問

※〔 〕は、本市の平均正答率、〔無解答率〕は、高いことが課題

- ③三 事象や行為を表す語彙について理解している【言葉の特徴や使い方に関する事項】〔57.4〕
 ③四 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える【読むこと】〔14.0〕〔無解答率：31.9〕
 ④一 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える【書くこと】〔54.5〕〔無解答率：37.0〕
 ④二 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える【書くこと】

④二 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える【書くこと】

正答率
27.5%

三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、【手紙の下書きの一部】の、どの部分をどのように修正しますか。三上さんの修正の仕方を参考にして、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと考える部分の一つを選ぶこと。なお、【手紙の下書きの一部】の内容は、変わらないようにすること。

条件2 修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直すのかを書くこと。

条件3 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。



9年間の視点

<小学校からのつながり>

- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること(小5、6)

<中学校で身に付けさせたい力>

- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える力(中1)

<無解答率>

22.2%

<正答の条件> ・次の条件を満たして解答している。

- ① 削除したり書き直したりしたい部分の一つ決めて、以下のような適切な修正をしている。
 a 長い文を修正している。
 b 語句を修正している。
 c 語順を修正している。
 ② 修正した方がよいと考えた理由を、誤りなく具体的に書いている。

<多く見られた誤答例>

- 条件①を満たしているが、条件②を満たしていない。(12.7%)
- 条件②を満たしているが、条件①を満たしていない。(15.2%)
- 上記以外の解答。(22.4%)
- まったく記述できていない(無解答)。(22.2%)

<正答例>

※「～いなかったのですが、～」を「～いませんでした。しかし、～」に修正
 ・文が長いので、読みづらく、体験活動の前と後での変化も伝わりにくいから。

※「指導してもらい」を「指導していただき」に修正
 ・謙譲語を使うことで、敬う気持ちが伝わると思うから。

※「～一つ一つ仕入れた商品を～」を「～仕入れた商品を一つ一つ～」に修正
 ・「一つ一つ」が「下処理したり」に係ることをはっきりさせるため。

本課題の改善策については、P13へ

(5) 小学校算数 (全16問)

◇相当数の児童ができている設問

※〔 〕内は、本市の平均正答率

- 1 (3) 示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選び【データの活用】〔72.9〕
- 2 (3) 角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選び【図形】〔76.5〕
- 4 (1) 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を選び【数と計算】【変化と関係】【データの活用】

- 4 (1) 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を選び【数と計算】【変化と関係】【データの活用】

正答率
80.0%

問題文のあとに子どもたちは、手を洗うときに使っているハンドソープについて話し合っています。



新品のハンドソープには、ハンドソープの濃度が240ml入っています。新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるかを調べるためには、240mlの他に何が必要でしょうか。

ア 1プッシュ分のハンドソープの濃度の量 3ml
イ 1プッシュするときに必要な量 20ml
ウ あそびさんが1日にプッシュする回数の平均 5回
エ あそびさんが手を洗うときにかかる時間の平均 50秒

正答の条件
アと解答している

◆課題の見られた設問

※〔 〕内は、本市の平均正答率

- 1 (2) 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く【データの活用】〔30.9〕
- 3 (2) 3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く【数と計算】
- 3 (3) 数直線上に示された数を分数で書く【数と計算】〔29.9〕
- 3 (4) 1/2+1/3を計算する【数と計算】〔70.9〕

- 3 (2) 3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く【数と計算】

正答率
17.9%

問題文のあとに、子どもたちは、分数の計算について話し合っています。



3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く【数と計算】

正答の条件
次の①、②、③の全てを書いている。
① 3/4と2/3の共通する単位分数が、1/12であることを表す数や言葉（分母が12の倍数の単位分数を含む）
② 3/4が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉
③ 2/3が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

正答例
3/4と2/3のもとにする数を同じ数にすると、その数は1/12になります。3/4は1/12の9個分、2/3は1/12の8個分です。

9年間の視点

＜小学校で身に付けさせたい力＞
・小数や分数の加法や減法について、数の表し方や数を構成する単位に着目し、既習の整数の加法や減法に帰着して考察したり説明したりする力（小4、小5）
＜中学校へのつながり＞
・正（負）の数、文字式や平方根の計算方法について、既習の計算方法に帰着して考察したり説明したりする力（中1、中2、中3）

＜無解答率＞ 14.5%

＜過去の調査問題＞R2 3 (3)、(4)



正答率
(全国)
実施せず

正答率
(全国)
実施せず

本課題の改善策については、P 15へ

(7) 小学校理科 (全17問)

◇相当数の児童ができている設問

※〔 〕内は、本市の平均正答率

- ①(1) 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの実験の条件を書く【B「地球」を柱とする領域】
- ②(3) ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻き数の変え方を書く【A「エネルギー」を柱とする領域】〔73.3〕

- ①(1) (赤玉の土の粒のおおきさによる水のしみこむ時間の違いをしらべるために) コップAの条件を下の通りにしたとき、コップBの条件(赤玉土の量と水の量)は、どのようにすればよいでしょうか。下の(ア)と(イ)の中にあてはまる数字を書きましょう。
【B「地球」を柱とする領域】

正答率
79.4%

	つぶの大きさ	赤玉土の量	水の量
コップAの条件	大きい	300 mL	250 mL
コップBの条件	小さい	(ア) mL	(イ) mL

<正答の条件>

- ・アを300及びイを200といずれも正しい数値を記述している。

◆課題の見られた設問

※〔 〕内は、本市の平均正答率

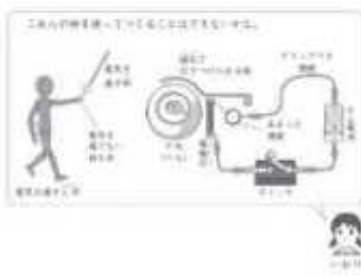
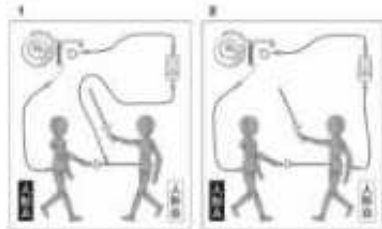
- ②(1) アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選び【A「エネルギー」を柱とする領域「粒子」を柱とする領域】〔8.9〕
- ②(2) 電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選び【A「エネルギー」を柱とする領域】
- ②(4) 乾電池2つのつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選び【A「エネルギー」を柱とする領域】〔45.3〕
- ③(4) レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く【B「生命」を柱とする領域】〔40.8〕
- ④(3) 海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選び【A「粒子」を柱とする領域】〔56.2〕

【「エネルギー」を柱とする領域】及び複数の領域にまたがる問題に課題が見られました。本資料においては、各領域に共通した課題として見られた「思考力・判断力・表現力等」を中心に改善策等をご紹介します。

- ②(2) 電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選び【A「エネルギー」を柱とする領域】

正答率
43.5%

②(2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選び、その理由を説明しよう。そのとき、電気の回路的なつながり方を考えよう。」



<正答の条件> 4

- ・人形Aと人形Bの「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれない電気の回路を選択している。この回路では、「人形Aの剣を人形Bに当てたとき」だけ電気が通る回路となっている。

9年間の視点

<小学校で身に付けさせたい力>

- ・観察、実験などに関する技能を身に付けること、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることを理解するとともに、電気の回路のつくり方について、**実験の方法を発想して表現すること。**(小3)

<中学校へのつながり>

- ・豆電球や電気抵抗等をつないだ回路をつくり、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、電流や電圧についての規則性を見いだすとともに、金属線には電気抵抗があることを理解すること。**解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈すること。**(中2)

<無解答率> 0.3%

(8) 中学校理科 (全26問：公開問題10問 非公開問題16問)

中学校理科は、C B T 調査となっており、生徒1人あたり、公開問題10問と非公開問題16問が出題されています。公開問題は、全日程に共通する問題(6問)と実施日別問題(4問×4パターン)、非公開問題は、幅広い内容・難易度から、生徒ごとに異なる問題(16問)により構成されています。

◇相当数の児童ができている設問

※〔 〕内は、本市の平均正答率

②(2) 「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する【「エネルギー」を柱とする領域】〔95.4〕

④(2) 「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する【「粒子」を柱とする領域】

④(2) 「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する
【「粒子」を柱とする領域】

正答率
93.9%

() に当てはまる最も適切な図を1つ選びなさい。



<正答の条件> 1

・「有毒な一酸化炭素は空気より軽い」という性質から、低い姿勢で避難することが適切な避難行動であると捉えている。

◆課題の見られた設問

※〔 〕内は、本市の平均正答率

①(4) 生物1から4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する【「生命」を柱とする領域】〔24.1〕

②(1) 【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験結果を記述する
【「地球」を柱とする領域】〔16.6〕

③(1) 設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する【「エネルギー」を柱とする領域】

⑦(2) 消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する
【「粒子」を柱とする領域】【「生命」を柱とする領域】〔44.6〕

⑧(2) Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで表す
【「生命」を柱とする領域】〔18.1〕

⑨(1) 【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する
【「地球」を柱とする領域】〔35.9〕

【「生命」を柱とする領域】及び複数の領域にまたがる問題に課題が見られました。本資料においては、各領域に共通した課題として見られた「思考力・判断力・表現力等」についての改善策等をご紹介します。

③(1) 設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する
【「エネルギー」を柱とする領域】

正答率
33.4%

【仮説】が正しい場合、どのような結果が得られればよいのか、最も適切なものを1つ選びなさい。

電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	1.0	1.5	2.0

電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	0.5	1.0	1.5

【装置】

図1の回路で実験を行ったとき、回路の中の温度センサーには、オームの法則が成り立つ。

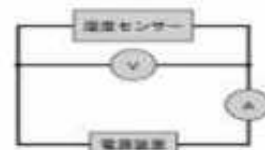


図1

<正答の条件> 2

・電圧の大きさが0.5V、1.0V、1.5Vのとき、電流の大きさが0.5mA、1.0mA、1.5mAになるものを指摘している。電圧の大きが大きくなると、電流の大きさも大きくなり、電圧の大きさと電流の大きさは比例の関係にある。

<多く見られた誤答> 1

・電圧の大きが大きくなると、電流の大きさも大きくなることは理解していると考えられるが、電圧の大きさと電流の大きさは比例の関係になっていない。このことから、オームの法則に関する知識及び技能が身に付いておらず、仮説が正しい場合の結果を適切に予想することに課題があると考えられる。

<小学校からのつながり>

・電気の回路についての実験、観察を通して、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること及び電気を通す物と通さないものがあることを理解すること。(小3)
・電流の大きさや向き、乾電池につないだ物の様子に着目して、それらに関連付けて、電流の動きを調べる活動をとおして、乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを理解すること。(小4)

<中学校で身に付けさせたい力>

・電圧の大きが大きくなると、電流の大きさも大きくなり、電圧の大きさと電流の大きさは比例の関係にあることを理解すること。電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想すること。(中2)

9年間の視点

本課題の改善策については、P20へ

3 教科に関する調査結果の課題の改善策

課題の改善策 1

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小2四イ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
- 中3三 事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる。
- 中4一 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

[小・第5、6学年] 言ウ

[中・第1学年] 言ウ

[中・第1学年] 書工

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ①文章を見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正すること
- ②事象や行為、心情を表す言葉に注意して読むこと
- ③漢字の誤りを見付けて正しく直すこと

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える力

【国語の改善策①】

既習の漢字を誤りなく文や文章に使用し、書き手の思いが伝わるように文章を推敲する活動の設定

授業例

中・第2学年「表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く」

授業改善のPOINT

相手に思いを伝えるときに失礼のないように文章を整えるための推敲のポイントを学びます。

授業改善のPOINT

1時間目に「手紙（礼状）」の目的（お礼や感謝の気持ちを届けること）を学び、本時は2時間目になります。

ふり返り

・書き手の思いが伝わるように手紙の文章を整えることができましたか。
・手紙を書くときに意識していきたいことは何ですか。

書き手の思いを正しく伝えるためには、「推敲のポイント」を確認して文章を整える。

推敲のポイント

- 誤字・脱字
- 敬語の使い方
- 文体の統一
- 主・述の対応
- 一文の長さ など

ださい。

九月も終わりに近づき、朝夕は寒さも感じるようになってきました。お忙しいと思いますが、皆様、お体を大切になさってください。

残りました。貴重な体験をさせてもらい、ありがとうございました。

入れや陳列の仕方を知ることができ、大変勉強になりました。多くの人に

できました。

いで、僕たちが知っていた販売の仕事の特徴だけでなく、仕

だき、ありがとうございます。店内を案内してもらったお

いただいた

様には、いかがお過ごしでしょうか。

気持ちよい秋風が吹く頃となりました。あさひかわ商店の皆様

めあて

書き手の思いが伝わるように手紙の文章を整えよう。

感謝の思いを届けよう

課題の改善策②

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

学習指導要領における領域・内容

小③三(1) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

[小・第5、6学年] 読ウ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

①目的に応じて必要な情報を見付けること

<身に付けさせたい資質・能力>

・必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする力

【国語の改善策②】

必要な情報が何かを考え、文章と図表などを結び付ける活動の設定

＜授業例＞

小・第5学年「固有種が教えてくれること」

授業改善のPOINT

- ・単元の流れ【読むこと～書くこと】
 - ①内容の読み取り。
 - ②資料の活用について学ぶ。
 - ③実際に記述する。
- 「読み手」から「書き手」へと立場が移行することを意識しましょう。

授業改善のPOINT

unnecessary資料を問うことで、各資料と本文や筆者の考えとの関係について検討します。書き手の立場で考えることで、どの資料もそれぞれ異なる目的で用いられていることに気付かせます。

授業改善のPOINT

教科書やICT機器を活用し、サイドラインを引く活動を通して、資料と文章を正しく結び付けましょう。

授業改善のPOINT

単元の言語活動を見据え、書き手の立場を意識して資料活用の効果について考えられるようにしましょう。

ふり返り

・資料を使うことのよさは何ですか。
・自分が資料を使うときに意識したいことは何ですか。

○資料は、読み手の理解を助けるために使う。
○資料は、筆者の考えの根拠として使う。

- ① 日本に固有種が多いこと
- ② 固有種が多い理由(日本列島の成り立ち)
- ③ 固有種が生き続けられた理由(豊かな環境)
- ④ 絶滅した動物の姿
- ⑤ 天然林の減少によるカモシカの捕獲数の増加
- ⑥ ⑦

- ① 資料と最もつながりがあると思うところに線を引く。
- ② 全体交流で意見を集約し、資料が示していることを整理する。
- ③ 筆者にとって最も大切だと思う資料を選び、話し合う。
- ④ 一番必要ないと思う資料を選び、話し合う。
- ⑤ 資料を用いて説明することの効果について考えたことをまとめる。

〔学習の流れ〕
①資料と最もつながりがあると思うところに線を引く。
②全体交流で意見を集約し、資料が示していることを整理する。
③筆者にとって最も大切だと思う資料を選び、話し合う。
④一番必要ないと思う資料を選び、話し合う。
⑤資料を用いて説明することの効果について考えたことをまとめる。

めあて

固有種が教えてくれること
◎単元のゴール
資料を効果的に選択して説得力のある文章を書く。
それぞれの資料が示していることを捉え、資料の効果について考えよう。

課題の改善策3

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

小3二(2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる。

中3四 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

[小・第5、6学年] 読ア

[中・第1学年] 読工

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ①文章の要旨を読み取ること
- ②文章全体の構成を捉えること

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・文章の話題や全体の構成を捉え、要旨を把握する力

【国語の改善策③】

文章の話題と全体の構成から筆者の考えを捉え、文章の要旨をまとめる活動の設定

＜授業例＞

小（中）・第6学年『考える』とは

授業改善のPOINT

「考えるとは…」と書き出しを指定することで、単に文章から言葉を抜き出すのではなく、文脈を捉えて筆者の考えをまとめる力を高めましょう。

授業改善のPOINT

本時のまとめとして、自分の考えに一番近いものを選び、第5時の学習に生かしましょう。

授業改善のPOINT

文章の一部ではなく全体を見て要旨を捉えられるよう、文章の話題や全体の構成に着目する活動を設定します。

・単元の流れ【読むこと】

- ①学習の見通しをもつ
 - ②筆者の主張をまとめる。
 - ③④筆者の表現の工夫を見付ける。
 - ⑤自分の考えをまとめる。
 - ⑥考えを交流する。学習を振り返る。
- 毎時間の学習が、単元の言語活動にどう結びつくのかを子どもたちと共有し、意識できるようにしましょう。

ふり返り

文章全体の構成から筆者の考えをとらえ、短い文でまとめることができましたか。
条件を満たして書くために、どのようなことに気を付けましたか。

【満上さん】
考えるとは、なやむことと区別し、何が問題なのかを箇条書きにして、解決するためにやるべきこととはつきりさせること。（五十六字）
【石黒さん】
考えるとは、人間にしかできないことで、なぜできるのか、まだ説明されていないもの。（四十文字）
【中満さん】
考えるとは、弱い立場の人に心を寄せて、何が大切なのかを考え、よりよい世界を築くために行動につなげる。（五十二字）

<条件>

- 「考えるとは、…（こと・もの）」の形にすること。
- 教科書の言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十文字以内で書くこと。

めあて

それぞれの筆者が、「考える」ということをどのようにとらえているのか、短い文でまとめ、自分の考えに近いものを選ぶ。

「考える」とは
◎単元のゴール
「考える」ということについてまとめた三つの文章を読んで、自分の考えをまとめたり、友達と伝え合ったりしよう。

課題の改善策4

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

小③三(2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

中④二 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

[小・第5、6学年] 読ウ

[中・第1学年] 書工

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ①情報を整理し、条件に従って考えをまとめること
- ②文章等において具体化されたことを思考する中で、抽象化して自分なりに表現すること

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・自分の考えを、条件に合わせて整えて、具体的に説明する力

【国語の改善策④】

読み手の立場に立ち、目的に沿って文章を推敲し、自分の意見とその理由を具体的に説明する活動の設定

授業例

中・第3学年『推敲』論理の展開を整える

授業改善のPOINT

指導事項の確実な定着と、前学年や実生活とのつながりを意識させることが大切です。実際に推敲を行い、定着を図りましょう。

教科書の練習問題や、旭川市学習プリントの活用

授業改善のPOINT

複数の候補の中から選ぶ活動を設定することで、表現の比較ができます。本論を踏まえていないもの(B)や、個人の感情に寄っているもの(D)を選択肢に入れることで、ふさわしい表現を考える際の観点を明確にします。

授業改善のPOINT

複数の「条件」を設定して、活動を行います。「具体的に」という言葉を入れて、曖昧な部分を言語化させることが大切です。
(参照 【交流した考え】)

ふり返り

条件に沿って文章を書き、自分の意見とその理由を具体的に説明できましたか。
読み手の立場に立って書くために、どのようなことを考えたり、工夫したりしましたか。

読み手の立場に立った客観的な視点で、目的や意図に応じた表現になっているかを論理の展開に注目して確かめることも、推敲のポイントである。

☆「交流した考え」(生徒がノートに書き出した例)
私はAを選びました。なぜなら、結論Aは第一、第二段落であげている方言のもつ「表現力」や「人をつなぐ力」などの内容をふまえた結論になっているので、説得力があると考えたからです。一方Bについては…

D ユネスコの調査で多くの言語が消滅の危機にあると聞いて驚いた。日本の方言もその一つだ。方言がなくなるのは寂しいから、守ることが大切だと私は考える。

C 言葉は単なる伝達手段ではなく、地域の暮らしや心を映す文化そのものだ。「きときと」や「けっぱ」と示されるように、方言には命を吹き込み、人を励ます力がある。だから私は方言を守りたい。

B 方言は使うと意味が通じにくいこともあるので不便だが、残しておくことも必要だと思う。文化として存在すること自体に価値があるからだ。

A 「結論の推敲案」
「きときと」に見られるような豊かな表現力と、「けっぱれ東北」に象徴される絆を生む力。方言は地域の文化と人の心を支える大切なものだ。だから私は、方言を守り伝えていく必要があると考える。

条件1 方言の必要性を感じていない人を説得するためDの中から、ふさわしいものを選ぶこと
条件2 ふさわしいと考えた理由を、級友に伝わるように具体的に書くこと。また、選ばなかったものと比較して述べてもよい。

《意見文》「方言を守ることの必要性」
※光村図書「国語3」二〇、二一頁参照

推敲のポイント

- ◎ 目的や読み手に合った表現。
↓読み手を説得できる表現。
- ◎ 文章全体の内容を踏まえて論理の展開を整える。
- 一、二年生で学習した内容。

めあて

表現を比較して推敲しよう
目的や意図に応じて、論理の展開を整える。
説得力を比較して、その違いを具体的に説明し合おう。

課題の改善策 1

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

小③(3) 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる。

中⑤ 相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第3学年〕A数と計算(6)ア(ア)(イ)

〔中・第1学年〕Dデータの活用(1)ア(ア)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ・小数と分数の必要性や意味を理解し、読み取ること。
- ・相対度数の必要性や意味を理解し、相対度数を求めること。

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・分数や相対度数などの数学的な用語・語句の必要性や意味を理解し、日常生活に活用する力

【算数・数学の改善策①】

授業の導入場面において、児童生徒の問題意識を引き出し、算数・数学の問題を見だし、事柄や数量の関係を捉える活動の設定

<指導の工夫例>

授業改善のPOINT

児童生徒が算数・数学の問題を見だし、解決に必要な数値を数学的に捉えることができるように働きかけを工夫しましょう。

Aぶり W
小数と分数

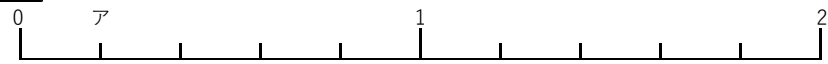
【授業で心掛けてほしいこと】

- ・児童生徒自身が算数・数学の問題を設定できるよう働きかけること

【児童が課題を見いだせるよう工夫する】

☆小3「分数」4/10

問題 次の数直線で、アの目盛りが表す数を分数で表しましょう。



アを1/10とする考えと1/5とする考えを取り上げ、どちらが正しいのか(又はどちらも間違っているのか)を考えさせる。

- ・1を何等分しているかに注目している児童の発言を取り上げ、分数の定義を振り返らせる。
- ・アが1/5になることを確認し、ア以外の目盛りについても興味をもたせる。

課題 ア以外の目盛りが表す分数も考えよう。

- ・分母は変わらず分子が1ずつ大きくなっていることを確認する。
- ・めもりの1は5/5のような分数で表すことができることを確認する。
- ・1より大きい分数については、次時に扱う。

【日常場面から問題意識を引き出し、問題を設定する】

☆中1「データの分析」4/11

※前時までに、生徒は、表やグラフ、代表値を基にデータの分布について考察している。

T:「今日は、みなさんのデータをもってきました。」
①1組のハンドボール投げの記録をTVに提示する。
T:「何m以上投げれば良い記録と言えるでしょうか？」
S:「35m」「30m」「25m」(35mと設定する)
T:「ハンドボール投げは、1年全体でも実施しています。」
②1年全体の記録をTVに提示する。
T:「1組のハンドボール投げの結果は1年全体と比べて、良い記録の人が多いいと言えるのかな。」

問題 35m以上投げた生徒が多いと言えるのは、1年1組と1年全体のどちらだろうか。

③35m以上投げた生徒の『多さ』をどのように比較するとよいのかについて考えさせる。

S:「人数が違うので比べられない」「割合を求める」
☞相対度数の意味と求め方について確認する。

実際のデータを扱うことで興味・関心を高める。

		1 年 1 組	1 年 全体
階級 (m)		度数 (人)	度数 (人)
以上	未満		
5	～ 10	3	19
10	～ 15	8	45
15	～ 20	9	40
20	～ 25	10	44
25	～ 30	6	30
30	～ 35	3	18
35	～ 40	1	4
合計		40	200

『良い』記録の捉えについて、生徒とのやりとりを通して35m以上と確認する。

授業改善のPOINT

児童生徒とのやりとりを通して、児童生徒の問題意識を高めてから問題を設定したり提示したりしましょう。

1年 資料の活用
度数の分布と代表値

課題の改善策②

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小③(2) 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
- 中⑥(3) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第5学年〕A数と計算(5)ア(ア)イ(ア)

〔中・第2学年〕A数と式(1)イ(イ)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ・小数の計算の仕方を振り返り、分数の計算の仕方を考えること。
- ・目的に応じて式を変形したり、式の意味を読み取ったりすること。

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・問題解決に必要な数値や式を捉え、見通しをもって数学的に表現・処理する力

【算数・数学の改善策②】

問題を解決するために必要な情報を見付けたり、解決の見通しをもったりする活動の設定

<指導の工夫例>

授業改善のPOINT

問題文や図から、解決の見通しをもったり、正しい求め方を選択したりするなど、児童生徒が判断し、表現する活動を位置付けましょう。

Aぶり W
小数と分数

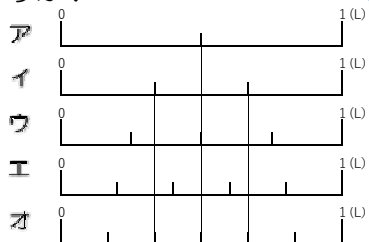
【授業で心掛けてほしいこと】

- ・児童生徒に解決の見通しをもたせる機会を設定すること

【選択する活動を通して、解決の見通しをもたせる】

☆小5「分数の大きさとたし算、ひき算」5/9

問題 かえでさんは、 $\frac{1}{2}$ Lと $\frac{1}{3}$ Lのジュースをしぼり、合わせて何Lあるか考えています。次のア～オのどの数直線を使って考えるとよいですか？



※加法の場面であることをおさえる。
※分母の大きさが違うとそのまま足せないことや共通の単位分数をもとにして考える必要性に気付かせる。
※必要に応じて面積図を取り扱う。

※数直線を使った説明（共通の単位分数のいくつ分）と通分とを関連させる。

課題 選んだ数直線を使って、計算の仕方を説明しよう。

【証明する事柄について、結論の形を明確にする活動を位置付ける】

☆中2「式の計算」10/14

①生徒に奇数（被加数）を挙げさせ、連続する奇数（加数）を教師が設定する。

$1+3=4$
 $7+9=16$
 $99+101=200$

生徒とのやりとりを通して、連続する2つの奇数を設定する。

T:「この計算から何か気付くことはありますか。」
S:「答えが4の倍数(ア)」「偶数(イ)」「奇数の間の数の2倍(ウ)」
②見出した性質を命題として表現させる。
T:「どんな数を計算すると、4の倍数になるのですか。」
S:「2つの奇数をたす。」「連続している2つの奇数だよ。」
『○○は(ならば)△△になる』の形で表現させる。
T:「いつでも連続する2つの奇数の和は4の倍数になるのかな。」

nを整数とすると、連続する2つの奇数は $2n+1$ 、 $2n+3$ と表すことができる。その2数の和は、
 $(2n+1) + (2n+3) = 2n+1+2n+3$
 $= 4n+4$
 $= 4(n+1)$
n+1は整数だから、 $4(n+1)$ は4の倍数である。したがって、連続する2つの奇数の和は4の倍数になる。

結論に応じた式の形を考える活動を位置付けることで、解決の見通しを持たせることができる。

③説明に必要な情報を確認する。

- ・連続する2つの奇数の表し方
→文字を使う(いつでも言えるを示す)
- ・4の倍数になることを示すには?
→ $4 \times (\text{整数})$ の形で表す

④結論を(イ)や(ウ)とする場合、説明がどう変わるかを考えさせる。

→(イ)(ウ) $4(n+1) \neq 2(2n+2)$
(イ) $2n+2$ は整数だから…
(ウ) $2n+2$ は2つの奇数の間の数

授業改善のPOINT

問題を解決するために必要な情報を整理し、解決の見通しをもたせる活動を位置付けましょう。

2年 数と式
式の活用

課題の改善策③

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小1(2) 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。
- 中9(3) ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

- 〔小・第3学年〕Dデータの活用(1)ア(イ)
- 〔小・第5学年〕Dデータの活用(1)ア(ア)イ(ア)
- 〔中・第2学年〕B図形(2)イ(イ)

旭川の子どもたちは、ここでつまづいた！

- ・事柄が成り立つ理由を筋道立てて考え、説明すること。

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・数量の意味を数学的な表現を用いて表現したり説明したりする力
- ・根拠を明確にし筋道を立てて説明する力

【算数・数学の改善策③】

図や式などの数学的な表現を用いて説明したり、根拠等を明らかにして説明したりする活動の設定

<指導の工夫例>

【授業で心掛けてほしいこと】

- ・児童生徒が理由や根拠を含めて説明する機会を増やすこと

授業改善のPOINT

児童生徒が、図や式などを根拠にしながら自分の考えを表現する機会を設定しましょう。

Aぶり W
表とぼうグラフ

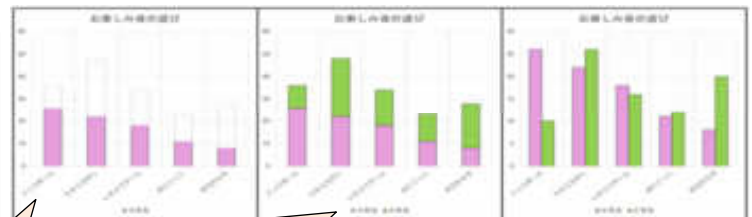
【棒グラフを根拠にして、自分の考えを表現する】

☆小3「表とぼうグラフ」8/9

問題 お楽しみ会で2年生と一緒に2つの遊びをすることになりました。アンケート結果のグラフをもとに、学級会で、どの遊びにするか話し合いをしています。どの遊びにしたらよいか、考えてみましょう。

<①「3年生」のグラフを先に提示する>

C:「多いものから順に2つ決めたい。」
T:「2年生のアンケート結果もあるよ。」
C:「2年生のアンケートの結果もグラフにして。」



<②「2年生」も重ねたグラフや、「2・3年生」が並んだグラフを提示する>

C:「1番人気の遊びが変わった。」
C:「ドッジボールは2位になったけれど、2年生はあまり人気がないね。」
※上記のような発言を引き出し、2・3年生の合計人数だけでなく、2年生の人数に着目するなどグラフの見方を広げる。

【誤りのある説明を改善する】

☆中2「三角形と四角形」7/18

問題 右の図で、 $\triangle DFB \cong \triangle EFC$ を証明しよう。

※前時で(Ⅰ) $\triangle ABE \cong \triangle ACD$ (Ⅱ) $\triangle EBC \cong \triangle DCB$ の証明を扱っている。

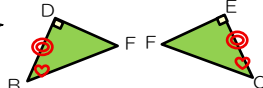
①誤りのある証明を読み、改善する。

$\triangle DFB$ と $\triangle EFC$ で、
仮定から、 $\angle ADC = \angle AEB$
 $DF = EF$
対頂角は等しいから、
 $\angle DFB = \angle EFC$
1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle DFB \cong \triangle EFC$

S:「DFとEFって等しいと言える？」
S:「問題文を読むと、仮定とは言えないよね。」
T:「等しいと言える辺や角はどこなのかな？」

②(Ⅰ)や(Ⅱ)の対応する辺や角は使えることを生徒から引き出し、正しい証明を完成させる。

♡ …Ⅰの対応する角
◎ …Ⅱの対応する辺



$\triangle DFB$ と $\triangle EFC$ で、
仮定から、 $\angle ADC = \angle AEB$
(Ⅰ)から、 $\angle DBF = \angle ECF$
(Ⅱ)から、 $DB = EC$
1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle DFB \cong \triangle EFC$

授業改善のPOINT

児童生徒が、誤りのある説明などを読み、根拠を明らかにしながら、よりよい説明に改善する活動を取り入れましょう。

2年 図形
三角形と四角形

課題の改善策4

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小③(4) 異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる。
- 中⑨(1) 証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

- 〔小・第5学年〕A 数と計算(5)ア(ア)
- 〔中・第2学年〕B 図形(2)ア(イ)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ・小数や分数の加法や減法の計算方法について、根拠となる単位量を基に考えること。
- ・問題を解決した結果から、さらに分かることや予測できることについて考えること。

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- ・計算などの結果について、問題場面に即して判断したり、発展的に考察したりする力

【算数・数学の改善策④】

問題を解決する過程を振り返ったり、得られた結果について考察したりする活動の設定

＜指導の工夫例＞

【授業で心掛けてほしいこと】

- ・問題を解決した結果や過程から分かることについて考える機会を設けること

授業改善のPOINT

問題を解決して得られた結果を、日常生活や社会の場面に照らして考えたり、学んだことを活用したりする活動を位置付けましょう。

Aぶり W

分数の大きさとたし算、ひき算

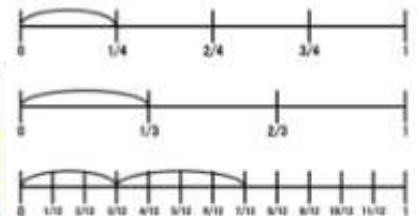
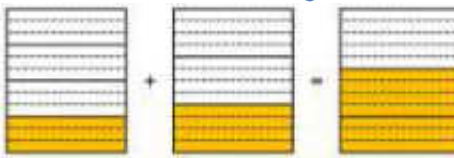
【「単位分数の大きさ」を基に考えることを繰り返し扱う】

☆小5「分数の大きさとたし算、ひき算」5/9（練習問題）

練習問題 友達に「どうして『 $1/4 + 1/3 = 2/7$ 』はまちがいのなの？」と聞かれました。あなたなら、どのように教えてあげますか。

- ・「通分」を学習した直後の練習問題では、手続き的な理解にとどまっている児童も一定数いると考えられることから、単なる計算練習だけでなく、通分の意味を考える場面も必要である。
- ・「通分をしていない」と気付くためには、通分の意味を理解し、なぜ通分しなければならないのかを理解していることが必要である。

- ・面積図や数直線を使うことも有効である。



【前時の問題を振り返り、新たに分かることを考える】

☆中2「三角形と四角形」2/18

問題 右の二等辺三角形で、他にどんな性質があるだろうか。

※前時に底角が等しい（ $\angle B = \angle C$ ）ことは証明している。

予想 (I) $BD = CD$ (II) $\angle ADB = \angle ADC (= 90^\circ)$ (III) $AD \perp BC$

①前時の証明を振り返り、(I)～(III)も言えることに見通しをもたせる。⇒証明へ

∠Aの二等分線をひき、辺BCとの交点をDとする。
△ABDと△ACDで、
仮定から、 $AB = AC$
ADは∠Aの二等分線だから、
 $\angle BAD = \angle CAD$

共通な辺だから、 $AD = AD$
2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、

$\triangle ABD \cong \triangle ACD$
合同な三角形の対応する角は等しいから、
 $\angle B = \angle C$

S:「(I)(II)は△ABDと△ACDが合同だから言えそう。」
S:「(III)は(II)と同じことだね。」
T:「前の時間の証明がそのまま使えるのかな？」
S:「△ABD≌△ACDまではよいです。」
S:「最後の2行を変えるだけで証明が完成しそうだ。」

最初から証明しなくてよいことや、前時の証明の一部を変更したり追加したりするだけで(I)～(III)のような新たに分かる性質を証明できることを理解する。

②前時で導入した補助線ADはどのような線分だと言えるか、数学的な表現で述べさせる。
⇒∠Aの二等分線、BCの垂直二等分線(中線・垂線)

授業改善のPOINT

問題を解決した過程を振り返って、新たに分かることを考えたり、説明し合ったりする活動を位置付けましょう。

2年 図形
三角形と四角形

課題の改善策 1

理科

課題の見られた問題の出題の趣旨

小2(2) 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第3学年〕
A 物質・エネルギー (5)
〔小・第5学年〕
A 物質・エネルギー (3)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ①電気を通すつなぎ方に関する知識を身に付けること
- ②電気の回路の作り方について、目的に沿った観察、実験の計画を発想し、表現すること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

・自然の事物・現象や規則性を理解し、目的に沿った実験方法を発想し、表現する力

【理科の改善策①】

身に付けた知識を基に、目的に沿った実験計画を立案したり、自然の性質や規則性を適用したものづくり等をしたりする活動の設定

＜指導の工夫例＞

小学校第3学年 「磁石の性質」「電気の通り道」

※学習内容を活用したものづくりの場面

学習展開

導入 電気やじしゃくの学習を振り返ろう。

発問 電気の通り道にはどのような性質がありましたか。



回路ができると明かりがついたよ。



金属は電気を通すよ。

発問 じしゃくには、どのような性質がありましたか。



同じ極同士は退け合ったよ。



じしゃくは鉄を引き付けたよ。

問題 おもちゃの計画書を書こう。

発問 おもちゃを作るときにどの性質を使って、どんなおもちゃを作りますか。



回路ができると電気がつく仕組みを使って迷路と輪が触れると、回路ができて明かりがつく「ふれるとピカッ！（電気迷路）」を作りたいな。



電気を通す物と通さない物を組み合わせて、ついたり消えたりする仕組みを作り、回路ができたときにだけ明かりがつくパトカーを作りたいな。



じしゃくの同じ極同士がしりぞけ合って動く仕組みを使っておもちゃを作り、レースで競走させたいな。

発問 計画書ができたら、おもちゃに生かす性質が正しく使われているか、おもちゃが思うように動くかなど、計画書と見比べながら直したり調整したりしておもちゃを作っていきますよ。

＜指導のポイント①＞

振り返りの設定

これまでの活動を振り返り、すでに、学習した電気とじしゃくの性質を確認させましょう。それぞれの性質を教室掲示するなどの手立てが考えられます。

＜指導のポイント②＞

作る目的を明確にする

どの性質を使って、どんなものを作るのか明確な目的を設定し、計画書を作成させましょう。

また、設定した目的が達成されているかを振り返り、修正しながら活動させ、既習の内容を生かしたものづくりとなるように指導しましょう。

◎中学校とのつながり

実験計画の立案は、中学2年生で主に重視する探究の学習過程です。児童が根拠をもって実験方法を考えられるように継続して指導しましょう。

課題の改善策2

理科

課題の見られた問題の出題の趣旨

小③(4) レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第5学年〕
B 生命・地球（5）ア

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

①実験の結果を基に、発芽するための条件について新たな問題を見だし表現すること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

・自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を捉えて、問題を見いだす力

【理科の改善策②】

自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を基に、問題を見いだす活動を設定

＜指導の工夫例＞

小学校第5学年
「植物の発芽、成長、結実」

学習展開（予想～結論は省略しています）

導入

発問（発芽したインゲンマメと発芽していないインゲンマメを見せて）どうして袋の中の種は発芽しないのでしょうか。



水がないと発芽しないと思うよ。



袋の中は空気が足りなくて発芽しないのかもしれないよ。



適した温度も必要かも。

＜指導のポイント①＞

比較による差異点の明確化

水を含んだ脱脂綿の上で発芽した種子と、袋の中で発芽していない種子を比較し、発芽に必要な条件を予想させましょう。

問題

発問 発芽したインゲンマメと発芽していないインゲンマメを見て気付いたことから、調べてみたい問題をつくりましょう。



インゲンマメの種子が発芽するためには、水が必要なのだろうか。



インゲンマメの種子が発芽するためには、空気が必要なのだろうか。



インゲンマメの種子が発芽するためには、適した温度が必要なのだろうか。

発問 自分が考えた問題を次の3点について見直してみよう。

- ①気付いたこと（発芽の条件）を基にしているか
- ②文末が「～だろうか。」という疑問形になっているか。
- ② 実験で解決できそうか。



疑問形になっているし、実験で確かめられそうだね。

＜指導のポイント②＞

問題文の精査

児童一人一人が作った問題を、「予想した発芽条件に関するものか」「『～だろうか。』という疑問形になっているか」、「解決可能な問題か」などについて検討させましょう。

◎中学校とのつながり

問題を見いだす活動は、中学1年生において重点が置かれている活動です。児童が問題を見いだすことができるよう継続して指導しましょう。

予想～結論 省略

課題の改善策3

理科

課題の見られた問題の出題の趣旨

中③(1) 仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔中・第1分野〕
(3) 電流とその利用 (ア) ㊦

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ①電流の大きさと電圧の大きさは比例の関係にあることを正しく理解すること
- ②電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想すること

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・自然の事物・現象に対する概念や原理・原則を活用して実験を立案し、仮説が正しい場合の結果を予想する力

【理科の改善策③】

身に付けた知識及び技能を活用し、結果がどのようなになるかを予想し、見通しをもって観察、実験を計画させる活動を設定

<指導の工夫例>

中学校第2学年

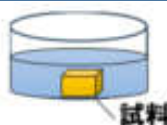
「生物の体のつくりと働き」

学習展開

導入 「豚肉のショウガ焼き」のショウガにはどのような効果があるだろうか

豚肉に含まれるおもな成分はタンパク質と脂肪であり、ショウガの絞り汁に含まれている消化酵素が豚肉を柔らかくすることを理解する。そして、ショウガの絞り汁に含まれている消化酵素がタンパク質や脂肪の分解にどのように影響するか調べる実験を計画する。

実験：豚のタンパク質からできているゼラチンのゼリーと豚の脂肪からできているラードの塊を表の実験1・2のようにショウガの絞り汁と水がまざった液体にそれぞれ入れ、変化が起こるかを調べる実験を計画した。なお、ショウガの絞り汁は加熱していないものを使い、試料に影響を与えない温度で実験を行うものとする。



仮説：ショウガの絞り汁に含まれる消化酵素はタンパク質のみを分解するだろう。（参考：2025年岡山県入試問題）

実験1	実験2
ゼラチン のゼリー	ラードの塊 のゼリー
ショウガの絞り汁＋水	



仮説が正しいとすると、実験1と2のうち、実験1だけに変化が見られたらOKだね。でも、本当にこの2つの実験だけでいいのかな？

実験1	実験2	実験3	実験4
ゼラチン のゼリー	ラードの塊 のゼリー	ゼラチン のゼリー	ラードの塊 のゼリー
ショウガの絞り汁＋水			水

水が試料を変化させるかどうかを確かめるために、実験3、4を行う必要があるね。



「ショウガの絞り汁に含まれる消化酵素がタンパク質のみを分解する」という仮説が正しいのであれば、どのような結果になるだろうか？



実験1のみ変化が見られる。



実験1と2と3に変化が見られる。



実験1と2に変化が見られる。



実験3のみ変化が見られる。

その他の疑問

- ・ショウガの絞り汁は、温度によってはたらきが変わるだろう。 など

<指導のポイント①>

実験の立案

課題に対し、仮説を立て実験を計画します。その際、科学的根拠に基づいて見通しをもって計画を立案することが必要です。また、実験を行う前に、仮説が正しい場合、どのような結果になるかを予想させることが大切です。

<指導のポイント②>

対照実験

ショウガの絞り汁によって分解が起きたことを確かめるためには、水のみを用いた実験を行い、結果を比べることが必要です。

◎小学校とのつながり

実験計画を立案する際は、仮説を基にしてどのような結果になるかを予想するなど、見通しをもたせる活動を取り入れましょう。

課題の改善策4

理科

課題の見られた問題の出題の趣旨

中8(2) 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔中・第2分野〕
(2) 大地の成り立ちと変化 (イ) ㊲

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ①地層が西から東へ下がるように傾いていることを正しく捉えること
- ②時間的・空間的な見方を働かせて、地層の広がりを検討して表現すること

<身に付けさせたい資質・能力>

・理科の見方・考え方を働かせて、自然の事物・現象について多面的、総合的に捉える力

【理科の改善策④】

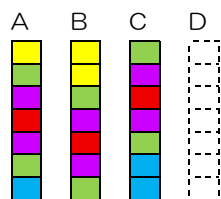
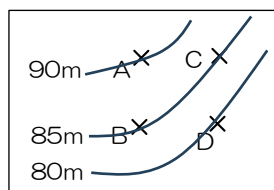
時間的・空間的な見方を働かせて、過去に起きたと考えられる事象を推論したり、推定したりする活動の設定

<指導の工夫例>

中学校第1学年
「大地の成り立ちと変化」

学習展開

導入 複数の地点A～Cのボーリング試料が以下のように得られた。このデータをもとに柱状図をつくり、地下の地層の広がりを考えよう。



ボーリング試料を空き缶でモデル化すると、地層の広がりを空間的につかめるんじゃないかな。

A(北)

B(南)

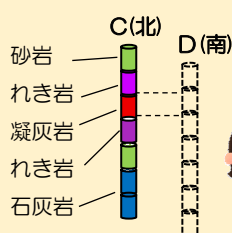
A(西)

C(東)

AとBを比較すると、地表の標高が異なっても、南北方向の地層が水平だと分かるね。

東西方向では、地層がずれていることから、西の方角に傾いていることが分かった！

学習課題 D地点の地下の柱状図を予測してみよう。地層から分かることについてまとめよう。



C(北)

D(南)

Cよりも標高の低いDだけど、南北方向には地層が傾いていないから、柱状図は予想できそうだ。

赤色の地層は凝灰岩だから、過去に火山の噴火があったのかも。また、れき岩や砂岩の層は、堆積した場所から河口までの距離に関するよ。

<指導のポイント①>

身に付けた資質・能力を活用

単元の終末などに、身に付けた知識及び技能などの資質・能力を活用して、多面的、総合的に捉える活動を設定しましょう。

<指導のポイント②>

理科の見方を働かせる

各領域における特徴的な見方を働かせ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成しましょう。

◎小学校とのつながり

小学校においても、単元を通して身に付けた資質・能力を関連付けて総合的に学習問題を捉え、解決しようとする学習に取り組ませることが大切です。さらに、理科の見方・考え方を働かせて、自然の事物・現象を多面的・総合的に理解させることが重要です。

4 児童生徒質問調査結果の概要

(1) 質問項目の分類の考え方

児童生徒に対する質問調査の全質問項目について、国立教育政策研究所の報告書では、質問項目を12個に分類していますが、この国立教育政策研究所の分類と本市の確かな学力育成プランの3つのカテゴリー（「学びを深める授業づくり」「落ち着いた学級づくり」「望ましい習慣づくり」）との関連付けを図り、下の表のとおり整理しました。

カテゴリー	国立教育政策研究所の分類	質問番号	
1 学びを深める授業づくり	地域や社会に関わる活動の状況等	小	25～27
		中	25～27
	I C Tを活用した学習状況	小	28～30-7
		中	28～30-7
	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	小	31～39
		中	31～39
	総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	小	40～43
		中	40～43
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	小	44～51
		中	44～51
2 落ち着いた学級づくり	挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	小	52～59
		中	52～59
3 望ましい習慣づくり	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）	小	60～70
		中	60～71-3
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）	小	
		中	72-1～72-5
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）	小	
		中	
3 望ましい習慣づくり	基本的な生活習慣等	小	5～15
		中	5～15
	学習習慣、学習環境等	小	1～4、71
		中	1～4、71-4
3 望ましい習慣づくり	学習習慣、学習環境等	小	16～24
		中	16～24

(2) 分析結果の整理

質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした児童生徒の割合が80%以上のものを「肯定的な回答が高い割合を示した質問事項」とし、肯定的な回答が60%未満のものを「肯定的な回答が低い割合を示した質問事項」として整理しました。

(3) クロス集計

教科に関する調査結果における正答率の高い児童生徒（U層）とそれ以外の児童生徒（E層）の質問紙調査の回答状況を比較し、各教科の正答率と学習状況・生活習慣との相関関係を分析しました。

(4) 旭川の子どもたちの概況

- 学びを深める授業づくり → ◆
- 落ち着いた学級づくり → ■
- 望ましい習慣づくり → ●

小学生

- ◆国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思います
- ◆理科の授業の内容はよく分かります

- ◆学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことで、次のことが当てはまります
 - ・分からないことがあった時に、すぐ調べることができます
 - ・友達と協力しながら学習を進めることができます
 - ・画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かります



- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思います
- 人の役に立つ人間になりたいと思います
- 人が困っているときは、進んで助けています



- 朝食を毎日食べています
- 毎日、同じくらいの時刻に起きています
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができます

- ◆学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる児童の割合は低い
- 学校に行くのは楽しいと思う児童の割合は低い
- 学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上勉強する児童の割合は低い

中学生

- ◆授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいます
- ◆国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思います

- ◆学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことで、次のことが当てはまります
 - ・インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができます
 - ・文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができます
 - ・学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができます



- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思います
- 人の役に立つ人間になりたいと思います
- 先生は、よいところを認めてくれていると思います



- 毎日、同じくらいの時刻に起きています
- 朝食を毎日食べています

- ◆学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる生徒の割合は低い
- 将来の夢や目標を持っている生徒の割合は低い
- 学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上勉強する生徒の割合は低い

(5) 小学校

①「学びを深める授業づくり」について

分析結果

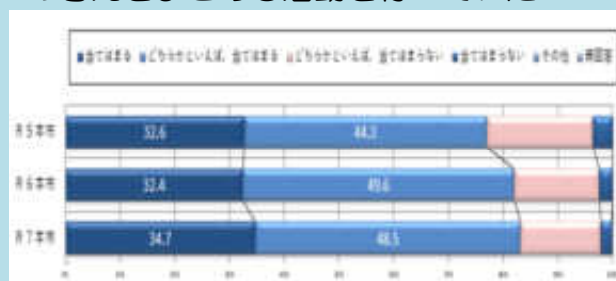
- 46質問項目のうち、34項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。肯定的な回答が低い割合を示した項目が、3項目ありました。
- 3年間の経年比較では、「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」等の7項目において肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「国語の勉強は好きですか」において、肯定的な回答が減少傾向にありました。
- 正答数の多い児童は、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と思っている割合が高い傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用している。(95.8%)
- 理科の授業では、観察や実験をよく行っている。(94.7%)
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。(93.8%)

肯定的な回答が特に増加傾向にある質問項目

- 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか



正答数の多い児童（U層）とそれ以外の児童（E層）とのクロス集計

- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 当てはまる | 2 どちらかといえば、当てはまる |
| 3 どちらかといえば、当てはまらない | 4 当てはまらない |



②「落ち着いた学級づくり」について

分析結果

- 11 質問項目のうち、8 項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。
- 3 年間の経年比較では、「自分には、よいところがあると思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」等の 7 項目において、肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、減少傾向にある項目はありませんでした。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（99.5%）
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか（97.4%）
- 人が困っているときは、進んで助けていますか（94.1%）

③「望ましい習慣づくり」について

分析結果

- 14 質問項目のうち、5 項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」等の 5 項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3 年間の経年比較では、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか。」において、肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」等の 3 項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- 朝食を毎日食べていますか（91.7%）
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（90.2%）
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか（83.4%）

肯定的な回答が全国の数値を下回った質問項目

※（ ）内の数値は、全国との差を表しています

- 朝食を毎日食べていますか（▲2.0）
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか（▲0.2）
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（▲0.8）
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）（▲1.0）
- 新聞を読んでいますか（▲1.8）
- 読書は好きですか（▲1.0）

(6) 中学校

①「学びを深める授業づくり」について

分析結果

- 47質問項目のうち、14項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでももらったりすることがある」等の10項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3年間の経年比較では、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」等の6項目において肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」等の2項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。
- 正答数の多い生徒は、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と思っている割合が高い傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（98.3%）※週1回以上
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか（94%）
- インターネットを使って情報を収集（検索する、調べるなど）することができますか（94%）

肯定的な回答が特に増加傾向にある質問項目

- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



正答数の多い児童（U層）とそれ以外の児童（E層）とのクロス集計

- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



②「落ち着いた学級づくり」について

分析結果

- 11 質問項目のうち、8 項目において肯定的な回答が高い割合を示し、肯定的な回答が低い割合を示す項目はありませんでした。
- 3 年間の経年比較では、「自分には、よいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」等の 6 項目において肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、減少傾向にある項目はありませんでした。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（98.4%）
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか（97.5%）
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか（92.9%）

③「望ましい習慣づくり」について

分析結果

- 13 質問項目のうち、2 項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「学校の授業時間以外に、どれくらいの時間、勉強をしますか」等の 5 項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3 年間の経年比較では、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか」の項目において、30 分以上の肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」等の 2 項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（91.9%）

肯定的な回答が全国の数値を下回った質問項目

※（ ）内の数値は、全国との差を表しています

- 朝食を毎日食べていますか（▲2.5）
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか（▲2.3）
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（▲0.7）
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（▲4）
※2 時間以上の割合を全国の数値と比較しました。
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（▲0.9）※1 時間以上の割合を全国の数値と比較しました。
- 新聞を読んでいますか（▲0.6）

課題の改善策 1

落ち着いた学級づくり

学校全体で取り組む学びの環境づくり

質問調査における児童生徒の回答状況等：挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」について、小学校、中学校共に肯定的に回答している割合が、全国を上回りました。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、小学校、中学校共に肯定的に回答している割合が、全国を下回りました。
- 児童生徒が「学校に行くのが楽しい」と感じながら、学校生活を過ごすためには、学級経営において、日々の児童生徒との関わりを大切にしながら、良好な人間関係を築くことや、教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりを通して、自己肯定感や自己有用感を育む工夫が求められます。



「学校に行くのは楽しい」と思えるように、児童生徒との関わりを意識して行っているけれど…。授業や日々の取組の中で、改善できることはないかな…。

こんなふうに思うこと、ありませんか？



児童生徒一人一人が「この学級にいると安心できる」「学校って楽しいな」と感じられるように、教師は、児童生徒の話を丁寧に聴き、学校生活のあらゆる場面で、「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、実感できるようにすることが大切です。また、教師は、児童生徒の話を真摯に聴き、その感情や考えをまずは受け止める姿勢やできたことや努力した過程を具体的に認め、褒めること、児童生徒の可能性を信じ、前向きな言葉掛けをすることなど、児童生徒が自己肯定感を高める関わりをすることや一人一人が安心して自分の力を存分に発揮することができる学級風土を醸成していくことが大切です。

自分のよさを認識し他者を尊重するための視点

1 「わかった!」「できた!」を実感できる学びの場づくり

・主体的な学びを引き出す授業づくり

授業で「わかった!」「できた!」という成功体験を積み重ねることは、児童生徒の学習意欲を高めるとともに、自己肯定感の醸成につながります。これらの経験は、自己指導能力を育むための大切な一歩となります。そのためには、学習内容を児童生徒の興味や関心と結び付け、一人一人が主体的に学びに向かえるような授業をデザインすることが重要です。

・協働的な学びで安全・安心を実感

児童生徒が安心して質問したり、自分の意見を発表したりできるようにするには、安全・安心な学級の雰囲気づくりが不可欠です。教師の一方的な指導ではなく、児童生徒同士が互いを尊重し、共に学び合うことができる共感的な人間関係を育むことが大切です。

2 規範意識や社会性を育む指導の必要性

・子どもの心を育てる「すごいね!」「がんばったね!」の言葉掛け

児童生徒一人一人に、よい面や頑張りを「すごいね!」「がんばったね!」と、言葉にして伝えていきましょう。このような関わりによって、児童生徒は、「自分は大切にされている」という自己存在感を感じたり、「自分にもできる」という自己肯定感が高まったりすることで、新しいことに挑戦したり、学習に前向きに取り組んだりする意欲が湧いてきます。

・自己決定の基盤としての規範意識の醸成

また、学校生活のきまりは、社会で生きていくための土台です。教師は、なぜそのきまりが必要なのかを丁寧に説明し、児童生徒が自分事としてその意味を理解して「自己決定」できるように導いていくことが大切です。

3 組織的な生徒指導体制の構築

・みんなでつくる、みんなで育てる学校へ

多様な課題に対応するためには、学級担任だけでなく、学校全体で連携して児童生徒を支える体制を整えることが不可欠です。組織的な対応により、教師は、多角的に児童生徒の課題を捉えつつ、学校全体で一貫した指導を実践することが可能となります。学校全体で生徒指導の土台となる安心・安全な環境を築くことで、特定の教師に負担が偏ることも防ぐことができます。

家庭と連携した、質の高い自主学習と有意義な時間の使い方

質問調査における児童生徒の回答状況等：基本的生活習慣等、学習習慣、学習環境等

- 「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、小学校では、平日、休日共に「1時間以上」の割合が全国を上回り、中学校では、平日、休日共に「2時間以上」の割合が全国を下回りました。
- 小中学校共に、「読書は好きですか」について、肯定的な回答の割合が高い一方、「学校の授業時間以外に、普段どれくらいの時間、読書をしますか」について、「10分以下」の割合が約半数でした。
- 授業における端末活用や持ち帰りの取組が進み、端末に触れる時間が増えてきている中、児童生徒に、より望ましい習慣を身に付けさせるためには、学校と保護者が連携しながら学習意欲の喚起や学習時間の確保、また、それらを持続させるための取組を工夫していくことが大切です。



1人1台端末の持ち帰りが始まり、家庭の協力や宿題、家庭学習の出し方の工夫がより必要になるな…。質の高い家庭学習にするためには、どのような取組が必要なのだろう…。



こんなふうに思うこと、ありませんか？

望ましい習慣の定着に向けて、児童生徒自身がメディアとの過度な接触時間を見直し、メディアとの健全な付き合い方を身に付ける「メディアコントロール」の視点を取り入れ、メディアから離れたことで生まれた貴重な時間を、「質の高い家庭学習や自主学習」「豊かな読書体験」等に充てることが大切です。家庭と学校が連携し、児童生徒の健やかな成長を見守り、支えていくことが肝要です。

メディアの利用も含めた上手に時間を活用するための視点

1 宿題や自主学習における端末の効果的な活用

- ・ドリルパークやL-gate等を活用して、学校の授業や課題と連動した宿題を配信したり、取組状況を踏まえた自主学習を促したりする。
- 【活用する利点】
- ＜児童生徒＞
 - 自分の課題に合った問題や、問題数を取り組むことができる。
 - 間違えた問題を何度でも反復することができる。
- ＜教 師＞
 - 取組状況（課題の積み残しや反復の状況等）を端末上で把握することができる。
 - 取組状況をもとに、児童生徒の学習意欲を高める指導をすることができる。
 - 児童生徒一人一人に適した宿題や課題を配信することができる。

2 メディアコントロールを実践する機会の創出

- ・生活リズムチェックシートやLSチェックシート等を活用し、家庭においてゲームやスマホ等のメディアに触れていた時間を把握させる。
- ・メディアに触れる時間やメディアから離れて何をするか（自主学習、読書、お手伝い等）を明確にすることで、児童生徒によりよい時間の使い方を考えさせる。
- ・各種通信や懇談等でメディアコントロールを話題にすることで、家庭へ啓蒙する。
- ・メディアコントロールによって生まれた時間を、学びを深める、人とのつながりを深める、心と体を整えるなど児童生徒の豊かな心・健やかな体の育成に向けて活用し、ウェルビーイングを向上させる。



望ましい生活習慣・学習習慣
の定着のページ
(北海道教育委員会)

3 読書活動の推進

- 【読書活動の推進に向けた取組の例】
- ・各教科において音読活動を充実させることで、文章を読むことの習慣付けを図り、読書習慣の土台作りをする。
- ・教育課程に読書活動と関連する単元を明記したり、教科等横断的な視点に基づき、授業において、あらゆる学習に関連している本を紹介したりすることで、読書の機会を拡大する。
- ・家庭学習と連動した取組を充実させる。
(例：本の音読、要約、意見文、感想文など、読書をすることで取り組むことができる学習活動を保護者と協力して進めていく)

おわりに

「調査結果報告書・指導の改善策」、「授業ポイント集」及び「学習プリント集」は、次の皆様に御協力いただき、作成しました。

御協力いただきました旭川市授業力向上プロジェクト各チームの皆様から感謝を申し上げます。

旭川市授業力向上プロジェクト

国語チーム

委員長：成田 麻友子（近文第2小校長）
副委員長：林崎 俊一（緑が丘小校長）
委員：狩集 慶一（春光台中教諭）
椎名 俊文（神楽中主幹教諭）
菊地 高志（東町小教諭）
平野 奈那子（新富小教諭）
蛭名 樹里（北光小教諭）
山田 夕佳（江丹別中教諭）
青田 京介（東明中教諭）
磯尾 隼人（東光中教諭）

算数・数学チーム

委員長：高綱 智美（春光台中校長）
副委員長：武田 要（末広小校長）
委員：花本 明典（永山西小主幹教諭）
金川 一代（近文小教諭）
石坂 うた子（豊岡小教諭）
三村 仁（神楽小教諭）
三浦 義則（光陽中教諭）
小幡 俊夫（東光中教諭）
廣野 裕介（春光台中教諭）
青木 俊也（永山南中教諭）

理科チーム

委員長：五十嵐 徹（春光小校長）
副委員長：進藤 貴史（広陵中教諭）
委員：加藤 久貴（朝日小主幹教諭）
馬場 大輔（神居東小主幹教諭）
藤橋 真臣（永山南小主幹教諭）
中野 健（愛宕東小教諭）
島野 夏美（西御料地小教諭）
高橋 理（神居中教諭）
田中 秀平（永山中教諭）
穴戸 広太（広陵中教諭）
鎌田 康裕（神楽中教諭）

英語チーム

委員長：井上 祐司（神楽中教諭）
副委員長：布施 朋子（愛宕東小主幹教諭）
委員：相木 千明（大有小教諭）
本庄 奈津美（旭川小教諭）
辻野 尚広（神楽小教諭）
澤田 睦美（神居中教諭）
中田 恭平（広陵中教諭）
高橋 祐介（東明中教諭）
西崎 雅俊（忠和中教諭）

旭川の学びチーム

委員長：北村 裕美（緑が丘中主幹教諭）
副委員長：久川 聡（緑新小主幹教諭）
委員：舛田 誉生子（西御料地小主幹教諭）
長岡 伸二（緑が丘小教諭）
菅沼 純治（中央中教諭）

学習習慣・生活習慣改善チーム

委員長：野上 大輔（神居小校長）
副委員長：榎本 智史（千代田小教頭）
委員：千葉 操（東五条小主幹教諭）
上村 純一（旭川第3小主幹教諭）
熊谷 潤一（六合中主幹教諭）
村田 靖彦（愛宕中主幹教諭）
平野 尚人（大有小教諭）
山田 浩輝（旭川中教諭）

（敬称略、職名は令和7年10月現在）

